

ふたば

新潟大学の魅力と現在を発信^{いま}

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2024.SUMMER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. **49**

特集

メジャー・マイナー制に
基づく学位プログラム

授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

基金関係のお知らせ

Campus Information



新潟大学のメジャー・マイナー制の特徴的な科目「分野横断デザイン」では、4年間の学修計画を学生自らデザインする

新潟大学は2004年度の全学科目化、
2005年度の副専攻制度導入といった改革を進め、
2021年度から全学分野横断創生プログラムというかたちで教育制度が発展してきた。
変化の激しい現代社会において、
分野横断の学びの重要性は、さらに高まっている。
このような中で、学びの多様性を学位を与える教育プログラム全体に包含し、
より特定の分野や専攻に収まらない教育プログラムへと推進するため、
2024年度よりメジャー・マイナー制に基づく「学位プログラム」へと枠組みを転換することとなった。
新潟大学の分野横断的な学びを推進する取組について紹介する。

**社会課題に対応する
人材育成プログラム**

新潟大学に入学した学生は、所属する学部が開設している学位プログラムのもとで学ぶことになる。それぞれの学位プログラムで学ぶ専門分野を「メジャー」といい、いずれのプログラムでもメジャーを中核として教養を含めた体系的なカリキュラムを編成している。社会の諸問題に対して的確に対応でき、課題解決のために広範に活躍できる人材育成の仕組みだ。

さらに新潟大学では「メジャー・マイナー制」を導入している。これはメジャーと異なる分野を「マイナー」として体系的に学修する制度で、全学分野横断創生プログラム（通称・NIC Eプログラム）として整備されている。近年の高等教育の中でも強調されている主体的な学びを培っていくという意味合いで導入されたものだ。学生が自分の興味・関心や問題意識に沿って学修を進められるよう、マイナー支援科目の開講や専門スタッフによる相談などのサポート体制が整え

特集 メジャー・マイナー制に 基づく学位プログラム



坂本 信 理事(教育・高大接続 担当) / 副学長

られ、分野を横断した幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を目的としている。この特色あるプログラムについては、坂本信理事（教育・高大接続担当、福島治副学長、浅賀岳彦副学長の3人に聞いた。

**視野と
選択肢を広げる
教育制度が必要**

まず、話を聞いたのは坂本理事。新潟大学がNIC Eプログラムを導入した背景には何があったのか。「当時、私は入試広報を担当し

2024.SUMMER No.49

CONTENTS

- 03 特集
メジャー・マイナー制に基づく学位プログラム
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! **学生ライフ**
- 10 注目される**研究報告**
- 12 教員によるコラム“**知見と生活のあいだ**”
- 13 **新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所**
- 14 **基金関係のお知らせ**
- 16 **Campus Information**

Cover Photo

緑が深まる初夏の五十嵐キャンパス。1年次は全ての学部の学生がこの五十嵐キャンパスで学ぶ。他学部の学生と交流し、刺激し合うことが、分野横断での学びにつながる。



『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

- @Niigata_Univ_O
- @niigata_university
- @niigata.univ



福島 治 副学長(学務担当)

行き来は当たり前前で、別分野の学位を持つことは普通のことでした。学部ではベーシックなことを学び、大学院で専門性を高めていくという学びがスタンダードだったのです。視野と選択肢が広がっていく中で、社会を変革していくような人材が生まれる可能性を感じました。以降、様々な教員や職員力を結集し、新潟大学の持つ教育制度を発展させる形でメジャー・マイナー制を構築しました」

学生が主体的に学びをデザインする

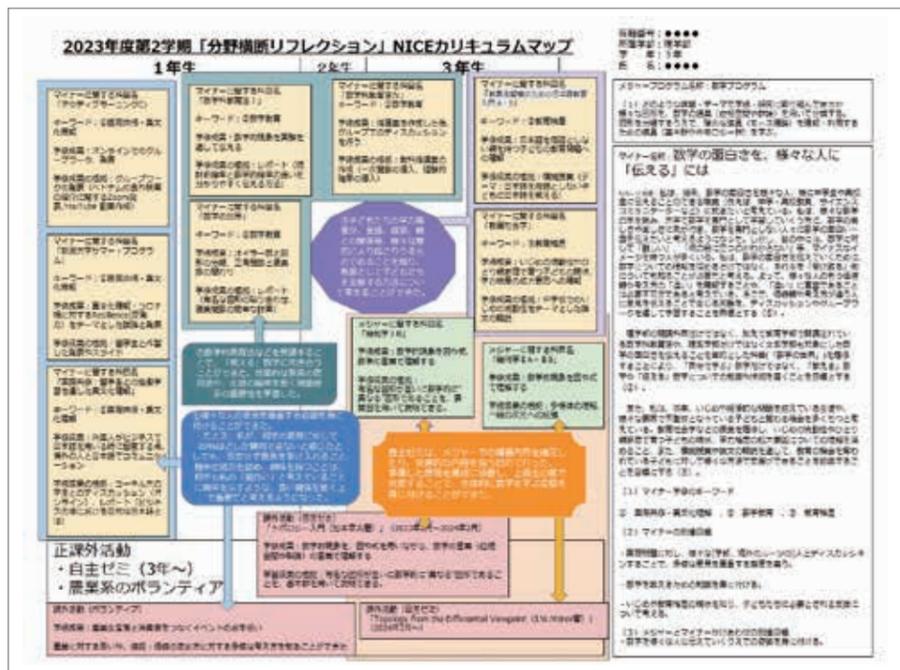
「新潟大学のメジャー・マイナー制は、総合大学の豊富な教育資源を活かし、学生が主体的に学びをデザインできるという点で非常に特徴的だ。従来の学部の枠にとらわれず、複数の専門分野を横断して学ぶことができる。その導入は国立大学の中では先駆けであった。福島副学長が話す。

「新潟大学のメジャー・マイナー制には2種類のマイナープログラムがある点特徴です。1つはパッケージ型マイナーです。これはアメリカの大学なども導入している一般的なマイナープログラムで、テーマごとにパッケージ化された科目リストの中から、自分で科目を選択し、計画的に履修します。もう1つが学修創生型マイナーです。これは新潟大学で開講されている科目の中から自らのテーマに適した科目を選択して、学生が自分でオリジナルなマイナーの学修計画をデザインすることができます。国内でも新潟大学にしかない『セルフメイド型』の学びで、学生は個人の問題意識に沿ったテーマを選び、専門の学びだけでは補えない、多様性や自由な関心と関連付けて主体的に学ぶ力を身につけることができます」

「分野の枠にとられない主体



浅賀 岳彦 副学長(教育改革担当)



「分野横断リフレクション」では、学生がそれまでの学びをカリキュラムマップとして可視化することで振り返りを行う

学部にとらわれず 複数の専門分野を横断して学ぶ

「新潟大学の理念は『自律と創生』です。自分の学びをきちんと考え、自ら実践することが重要です。そこで学修創生型マイナーでは、自分の興味・関心や問題意識を起点に学修する課題を見つけ、履修

多彩なマイナープログラム

学修創生型マイナー

自らの探究課題をもとにセルフメイドするプログラム。本学で開講されている科目の中から自らのテーマに適した科目を選択して、マイナー学修デザインを作成。オリジナルなマイナーの学修計画をデザインし、履修する。必修科目の「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」を含む14単位以上。

パッケージ型マイナー

各学問分野の基礎/応用、特定テーマの分野横断プログラム。45のプログラムごとにパッケージ化された科目リストの中から、自分で科目を選択し、計画的に履修する。12単位以上。

- ・人文・社会科学分野(17プログラム)
- ・自然科学分野(14プログラム)
- ・保健学分野(1プログラム)
- ・学際分野(13プログラム)

メジャー・マイナー制の特徴

総合大学の豊富な教育資源を活かし、学生一人一人が学びをデザインする
新潟大学のメジャー・マイナー制の特徴

従来の学部の枠にとられない、複数の専門分野を横断して学ぶことができます。

- 1 学部で学ぶメジャーをベースに、幅広い分野をマイナーとして学ぶことができます。
- 2 学生一人一人の問題意識に沿った分野横断型の学修を自分でデザインできます。
- 3 学生の皆さんが総合的、複合的な学びから自ら課題を発見し、解決方法を見つけ出す力を身につけることができます。

メジャー・マイナー制で身につく力



社会的課題に複眼的視野によりアプローチできる人材の育成
メジャーとマイナーを柔軟に組み合わせた学修

4年間の流れ



授業中のグループ学習や、アカデミック・アドバイザーとの学修相談を通して、マイナーの学修計画を学生自らデザインします。

自分のマイナー学修の達成度を明らかにし、メジャー・マイナーの学びをふりかえります。

未来に向けて歩みを進めるための新しい教育システムが必要

「新潟大学は10学部を有する国立総合大学です。東京都内からも新幹線なら2時間と距離的にも近い。非常に恵まれた環境です」という説明をしていました。そこで、ある先生から「国立大学なら関東地区や他の地方にもあります。

2時間もかけて新潟に行く必要はどこにあるのでしょうか？ 新潟大学にしかないものは何ですか？ と非常に鋭い質問を投げかけられたのです。私はハッとしました。新潟大学が未来に向けて歩みを進めていくためには、本当に特徴のある

教育システムが必要だと痛感したのです」

目指すべき教育システムの構築のためのヒントになったのは、坂本理事がかつて過ごしたアメリカでの研究員時代の記憶だったという。「私の専門は機械工学ですが、同僚研究者の経歴を見ると文理の

大学時代の学びは 堅苦しくなく 自由さがあるべき

計画を立てる「分野横断デザイン」と、マイナー科目履修の終盤に自分の学びを振り返る「分野横断リフレクション」が必修科目になっています。また、アカデミック・アドバイザーという専門スタッフがいて、学修相談などの様々なアドバイスを通して学生を伴走的に支援しています」

新しい価値観が 課題解決の力を 養っていく

新潟大学のメジャー・マイナー制には2024年度に変更があった。当初パッケージ型マイナーは4つだったが、2024年度には45にまで増えている。その変更の経緯とポイントは何だったのか。福島副学長が話す。

門科目の履修者は多かったのですが、最終的に修了まで辿り着く学生はそのうちの一部。学生の負担を減らし、さらに学びやすくするためにオナーズ型マイナーの科目をパッケージ型マイナーに移行しました。結果的に、マイナーで提供するパッケージの多様性が広がったわけです」

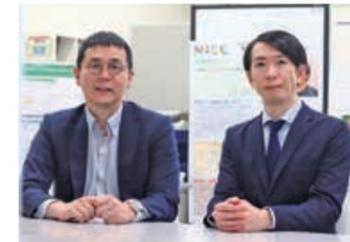
現在、メジャープログラムは10学部で38プログラム、マイナープログラムはパッケージ型マイナーと学修創生型マイナーで46のプログラムがある。メジャー・マイナーの学修を通じて、学生たちにはどのような力が身につくのか。

「学部が用意した科目ではなく、自主的に選択するので主体性が伸びます。また、学部を超えて学ぶことで幅広い知識やスキル、多角的視点も身につくでしょう。異なる背景や知識、マインドを持った学生たちが相互に学び活動することで他者理解やチームワーク、コミュニ

Support system

NICEプログラムの支援体制

- 左) 教育基盤機構教学マネジメント部門
上島洋佑 准教授
- 右) 教育基盤機構未来教育開発部門
柿原豪 特任准教授



履修登録期間に行われる履修相談会では、教員だけでなく、チュードントアシスタントも相談を受け付けている



チュードントアシスタント。2024年度は13名が登録している

マイナーの履修支援では、連携教育支援事務室から2名、NICEプログラム室から2名の専任スタッフが事務的、運営的な活動を担っている。上島洋佑准教授はNICEプログラムに関する教育の開発・企画運営に関わる全学的なマネジメントを担当。メジャー・マイナー制に関しては、新入生・在学生向けのガイダンスなどを開催し、幅広く発信をしている。またアカデミック・アドバイザーとして学修相談に当たる柿原豪特任准教授は、マイナー学修における入門科目で1・2年生が対象の『分野横断デザイン』と3・4年生が対象の『分野横断リフレクション』を担当。メジャーで学ぶ内容を理解しながら、いかにマイナーを組み合わせっていくかという重要な役割を担う。『分野横断デザイン』はマイナー学修の計画書を学生自ら作る授業、『分野横断リフレクション』はこれまでの学びを集大成する授業で、学生自身の学びをブラッシュアップさせていきます(柿原特任准教授)。また、チュードントアシスタントと呼ばれるマイナー履修経験のある先輩学生が授業のサポートと広報活動を行うのも特徴だ。「教員の関わりとは異なる目線で、マイナーの学びを補完する役割を担ってくれて助けられています。ボランティアな気持ちもあるでしょうが、自己の成長を考えて、マルチに取り組む現代的な学生の感覚が見られます」(柿原特任准教授)。「マイナーでの学びを通して学生には分野複眼的な視点と自己を相対化する力が身につきます。学生がそれぞれ持っている学びの資源を活用できるように、成長をサポートしていきたいと思います」(上島准教授)。

マイナーの学修を組み合わせ メジャーの知見を広げていきたい

法学部法曹養成プログラム2年
三上夏奈さん

パッケージ型マイナー「ふるさと共創学」履修中



「現代に生きる人々は法律に対してどんなイメージを持っているのか?」私はNICEプログラムを通じてこの探究課題と向き合っています。

メジャーの法学を学ぶなかで「専門家でない人にとっては、法律はあくまでも『感覚』として認識するものであり、条文としての法律が意識される場面は少ないのではないか」と感じるようになりました。例えば、今や「法的措置」という言葉が切り札として使われていますが、ここに現代人の法律に対するイメージが現れていると思います。

このような法学とこれに対する世のイメージの差異を言語化することを目標に、私は法社会学や社会心理学、そしてパッケージ型マイナーの「ふるさと共創学」で地域という小さな社会に焦点を当てた科目を選択するなど、様々な学問分野を自由に学んでいます。将来は依頼者に寄り添う法律家を目指しており、卒業までにマイナーの学修を組み合わせることで更に知見を広げていきたいです。

【学生の声】

メジャーとマイナーの学びで 自分の目標がより鮮明になっていく

経済科学部地域リーダープログラム2年
金子悠璃さん

学修創生型マイナーを履修中



私は農業を活かした地域活性的な方法について考えるためにマイナーの学修に取り組んでいます。経済科学部の地域リーダープログラムでは、メジャーとして地域活性における経済的視点を養うための知識、地域の経済・諸課題を解決するために必要なスキルを学んでいます。マイナーでは農業に関する知識を学びつつ、そこにダブルホームの活動で得られた知見を加えることで地域活性に向けた方策を検討しているところです。例えば、私は農業体験イベントが地域活性につながると考えています。

私はメジャーで得たものをダブルホームの場で活かし、地域の活性化に向けた課題を明らかにした上でアプローチの方法を探るというサイクルが、メジャーとマイナーの間で成り立つと思っています。メジャーとマイナーを並行かつ関連づけて学ぶことにより、自分が具体的にどのように地域の役に立ちたいかがより鮮明になってきています。地域リーダープログラムで身につける課題解決スキル、ダブルホームで培う行動力を組み合わせ、今後も地域の諸課題について考えていきたいです。

メジャー・ マイナー制の 今後の展開

ニケーション能力も育つはずで、新しい価値観を得ることで課題解決に取り組み力も養えます(浅賀副学長)



グループワークは多様な学生と相互に学び合う機会にもなる

「未来の新潟大学を象徴する言葉として『真の強さを学ぶ。』というメッセージを掲げていますが、このメッセージを決める際に思い浮かべたのは、タフでしなやかな新潟大学の卒業生たちの顔でした。『真の強さ』に決まった形はありません。正解はなく、それぞれが学び続け考え続けることで少しずつ近づいていくもののように思います。大学での学びは、自分で考えて生きていく力の土台になります。だからこそ大学時代の学びは堅苦しくなく、自由さがあるべきです。旧来の大学教育では目まぐるしく変わる社会情勢から求められる人材育成には対応できません。今や優秀な学生は海外の大学に出ていきますし、このままでは海外の優秀な人材から日本の大学が選ばれなくなります。私たちは新潟大学のメジャー・マイナー制を、日本の大学教育が抱える課題に対しての確かなアクションだと考えています」

NICEプログラムは2020年度に文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業(メニューI)」に採択され、2022年度に行われた中間評価では「計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」として、最高評価である「S評価」を受けた。これに対して坂本理事は「S評価はNICEプログラムに関わる全スタッフの努力と啓蒙活動、そしてプログラムを履修した熱心な学生たちのおかげです」と話し、こう続ける。



ガイダンスには多くの学生が参加し関心の高さが窺われた

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑部員は36名。2か月に1度の定期ライブや新大祭・黎明祭でのステージ発表と教室ライブなどでパフォーマンスを披露している

新潟大学DJ・DTMサークル CATHEDRAL

→毎週金曜18時から五十嵐キャンパスの学生会館で活動。機材は私物の他、サークルでもコントローラーを所有。貸し出しもしている

1週間の締めくくりとして、週末が楽しくなるように活動

クラブやイベントなどで音楽を途切れさせずにセレクトし続けムード作りをするDJ。パソコンを使用して楽曲制作を行うDTM(デスクトップミュージック)。「入部時点で、DJはほとんどが初心者で、DTMも経験者は半数程度。好きなアーティストに憧れてDJやDTMを始める人が多いです」と部長の丹治瑞稀さん。全員で共通の目標を目指すのではなく、個人の音楽創作と情報交換の場としてサークルは位置づけら

れている。なかにはDTMのコンテストで賞金をもらうような学生も。「個人活動が中心ですが、疎外感が生まれることはありません。金曜の夜に休息の場として部会を設定しているため、ゆるゆるとした雰囲気です。一般的にイベントで盛り上がっている人が多いDJのイメージですが、それとはかけ離れた落ち着きと平和さがあります。1週間の締めくくりとして活動が楽しみになるような空気作りを心がけています」



部長 丹治瑞稀さん (創生学部3年)

音楽を通して自己表現する力が養われます

新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、随時お届けします！ぜひダウンロードください。



App Store

Google Play

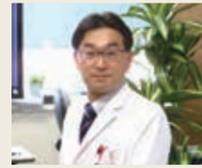




芝田晋介教授

Shinsuke Shibata

Profile 博士(医学)。専門は神経発生・再生学。電子顕微鏡を使ったイメージングを中心に、様々な動植物の組織を解析。



人体の構造と機能I(組織学総論)

顕微鏡による生体組織の観察を通して正常な人体の構造理解を深める

組織・細胞レベルで人体の構造を学ぶ組織学(総論・各論)は医学部医学科2年次の必修科目。講義と顕微鏡を使った実習を交互に行う。この日の実習では、ヒトやラットの組織を光学顕微鏡で観察。光学顕微鏡による観察やスケッチの他、組織標本をスキャンし高画質のデジタルデータに変換したバーチャルスライドシステムによるインターネツト経由の標本観察や学生の発表も行われる。「3年次には病理学や臨床科目で人体の病的変化(異常)を学びます。その前段階として、2年次の組織学では人体の正常な構造、特に正常組織を学びます。顕微鏡による実習と発表

STUDENTS VOICE



左:岡本玲奈さん(医学部医学科3年) 右:塩谷阿弓さん(医学部医学科3年)

「実際に顕微鏡を使った観察やスケッチは新鮮で、常に発見があります。学外の先生が教壇に立つ年4回の特別講義も内容が濃く、それをきっかけに腸管研究に興味を持ち、東京農業大学の医学研究実習に参加する機会を得ました」(岡本)「芝田先生のキーワード一覧の公開やクイズで主体的な学びの大切さを実感しました。医学研究実習は授業で知ったヘルシンキ大学で脳腫瘍を研究し、将来脳神経内科に進みたいと思います」(塩谷)

会を行うことで医学の基礎知識と考え方を主体的に身に付けてもらいます」と担当教員の芝田晋介教授。講義では「学習範囲が広く、勉強法が分かりにくい」という学生の声に応え、理解に必要なキーワード一覧と試験範囲を事前に明示。さらにバーチャルスライドや講義資料、試験問題、

採点者講評を完全公開して、効率的で主体的な学習方法の修得へと導いている。また、クイズやグループ発表を取り入れ、双方向授業や参加型実習で学習意欲を喚起している。「試験には出ないと伝えられた上で、実際の臨床症例を教材に取り入れることもあります。患者さんを意識することは、医師を目指す学生のモチベーションアップに必要だと思っています」また、学外から講師を招き開催される基礎医学研究の特別講義も学習意欲を高める取組だ。「国内や海外の研究室で学べる3年次の『医学研究実習』を意識してもらえようように開催しています。世界で幅広く活躍する素晴らしい医師に成長してもらいたいことを願っています」

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

医学部医学科



—小児医療宿泊施設—

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

病気と闘う子どもと、その家族と一緒にいられますように。

ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細はこちら



お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介 注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究トピック 山地斜面災害

大規模崩壊地における土砂生産プロセスを理解 将来の予測と防災・減災対策に寄与する

大雨や地震による地盤のゆるみや崩壊によって形成される崩壊地。山地斜面から崩れ落ちた土砂は、時に下流域の住民や公共施設等の社会資本に影響を及ぼす土砂災害として表れる。西井稜子准教授は、山の地形変化に着目し、土砂生産・移動の実態解明に取り組む。

「湿潤変動帯に位置する日本の山地には、形成年代も規模も異なる崩壊地が多数存在し、特に大起伏の山が連

なる中部山岳帯などでは毎年多くの土砂が生産されています。落石、表層崩壊、あるいは深層崩壊と、土砂生産プロセスは様々ですが、どの崩壊地でどれだけの土砂が生産され、その原因が何なのかは詳細は明らかになっていません。主要な土砂供給源がどこか、そしてどのように土砂が生産され川へ移動しているのかを研究しています」

南アルプスの間ノ岳や七面山崩れといった大規模崩壊地を対象に、現地での測量や気象観測等を実施。航空レーザ測量データを用いた標高差分解析も行い、既存の大規模崩壊地からの土砂生産量の寄与度が大きいことを明らかにした。

「大規模崩壊地は形成時だけでなく、その後も活発に土砂を生産し続ける場合があり、異なる測量時期のデータを比較して崩壊地ごとの土砂生産量を調べました。その結果、既存の（活発な）大規模崩壊地からの土砂生産量のほうが、近年の新規崩壊によるものより多いことがわかりました。現在はドローンを使って対象エリアを年に数回測量し、より短い期間内での地形変化について調査を進めています。気象条件や土砂量をもとに経験式を作成し、温暖化によって気象に変化が生じた際、どこでどの程度の土砂が



↑上は赤崩、下は七面山の大规模崩壊地。どちらも南アルプス南部にある

生産されるかを予測できればと考えています」

災害大国と呼ばれる日本において「減災」が注目されるようになった昨今。西井准教授は、下流域の砂防計画や土砂対策だけでなく、情報発信に関するソフト対策にも目を向ける。

「日本の国土は土砂移動が起こりやすく、実際に山地斜面災害の発生も多い地域ですが、崩壊の起こりやすさと災害リスクの大きさは必ずしも比例しません。崩壊地の地形的特徴を把握し、土砂生産プロセスを理解することは、堤防や砂防えん堤の築造をはじめとするインフラ整備、避難行動を呼びかけるシステム開発や防災教育、さらには将来の土地の利活用にもつながります。これからも研究に励み、短期的・長期的両方の視点で災害対策に貢献していきたいと思ひます」



災害・復興科学研究所 西井 稜子 准教授

Profile | 博士(理学)。専門は地形学、斜面災害。山地地域における土砂生産・移動について研究するほか、山地斜面災害発生時の調査や対策立案なども行う。

研究トピック

植物栄養学と醸造微生物学の分野横断型研究 —酒米の肥培管理と日本酒の発酵特性の関係—

酒米作りにおける肥料成分の違いから 酵母の働きと酒の味に及ぼす影響を解き明かす

2018年に新潟県、新潟県酒造組合との連携で立ち上がった新潟大学日本酒学センター。宮本託志特任助教と西田郁久特任助教は米や酵母に関する研究を行う「醸造ユニット」に所属する。

「酒米を研究対象にする私と、発酵を専門にする西田先生が、共同で収穫した酒米を原料に日本酒を造り、その品質評価までを一貫して行う研究に取り組みました」と宮本特任助教。日本酒学分野において「酒米作り」や「発酵」を単体でテーマにした研究は前例があるが、酒米作りから着手し、日本酒の発酵特性や味わいとの関連性に迫る研究は珍しいという。

研究ではまず、宮本特任助教がイネに与える肥料の窒素の成分量を変えて栽培試験を実施する。そこで収穫された米を用いて「日本酒小仕込み試験」を実施。約3週間かけて完

成した日本酒に含まれる成分を西田特任助教が分析する。2021年から3回行った試験・分析の結果、肥料に含まれる窒素量が日本酒のコクや旨味のもとになるアミノ酸やアルコールなどの成分量に影響を及ぼすことが分かった。

「酒米の出来によって、日本酒の成分にも変化が見られることがわかりました。そこで得られたデータをさらに詳しく分析し、研究を進めることで、日本酒や酒粕に含まれる新たな機能性成分や付加価値を発見できるのではと考えています」(西田特任助教)

酒米作りと酒造りをつなげた研究成果は、酒蔵が従来行ってきた酒造りに、「商品開発」という形で酒米農家が参画する可能性を感じさせるものだ。「酒米作りの分野から日本酒造りに貢献したい。新しいスタイルから新しい日本酒が生まれることを期待していま



日本酒学センター 宮本託志 特任助教(右)

Profile | 博士(農学)。専門は植物栄養学。肥料として与えた成分が植物に吸収されるメカニズムや、成長に与える影響を研究する。

西田郁久 特任助教(左)

Profile | 博士(バイオサイエンス)。専門は醸造微生物学。酵母のアルコール発酵や代謝産物機能性に関して研究する。



↑異なる施肥条件でのイネの屋外栽培試験(左)と日本酒の小仕込み試験(右)

す」と宮本特任助教は話す。また、西田特任助教はこう続ける。「日本酒学センターが連携するフランスのボルドー大学を訪ねし利き酒を体験いただいた際、日本酒を初めて口にすると現地の方にも『おいしい』と評価されました。今後、発酵に関わる酵母の研究をさらに進め、酵母の改良を通じた日本酒のバラエティー化にも取り組みたいです。そしてさらなる分野横断型研究も展開し、国内外に、日本酒の新たな魅力を伝えていきたいです」

特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。



入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
(受付時間 平日 10:00~15:00)
E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

2024年、
新潟大学は
創立75周年を
迎えます



←昭和55(1980)年の五十嵐キャンパスの様子(1980年入学記念アルバムより)。

↑ 沢田克己名誉教授が在学中の人文社会科学系棟。昭和56(1981)年撮影。

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所



さわだかつみ
沢田克己
新潟大学名誉教授

法学修士。専門は経済法。昭和61年、法学部助教授。平成4年、法学部教授。法学部副学部長、副学長・広報センター長を歴任。令和6年、定年退職。現在は高岡法科大学で教鞭をとる。

「私は比較的、真面目な学生だったのですが、試験前になると友人からノートを見せてくれとよく言われました。貸すのはいいけど、試験前に自分のノートが手元がないというのはなかなか困ったものです。今も昔もそんな学生の姿は変わらないように思います」

所属したゼミは学生と教員の距離が近く親密な雰囲気だった。毎週金曜のゼミが

終わると、そのまま研究室に残り、大勢でウイスキーを飲んだ。

「ゼミの先生はお酒好きで有名でした。研究室で飲んだ後は居酒屋に行くのですが、先生からすると、ある程度酔わせてから外に繰り出した方が安上がりだと考えていたのかもしれない。今なら『研究室で酒を飲むなど不謹慎だ』と言われるので、酒を飲む時代でした。今の学生は酒もタバコも麻雀もしないと聞きます。それはそれで健康的でよいのですが、学生と教員を媒介するものが少なくなってきたようで、少し寂しく感じます」

学部卒業後は、新潟大学と京都大学の大学院を経て、再び新潟大学の教壇に立った。「学生時代を振り返ると、新しいものを吸収した時代だったのだと感じます。今は世界中の文献を簡単に調べられる時代ですし、学修や研究をする上で新潟大学の環境は良くなったと思います。ただし、恵まれた研究条件を生かすも殺すもやはり本人次第です。もっと知りたい、学びたいという探求力はいつの時代の学生にも必要だと思います」

沢田克己名誉教授は、昭和52(1977)年4月に人文科学部法学科に入学。その1か月後の5月に人文科学部は法文学部に改称され、さらに昭和55(1980)年、法文学部は人文科学部・法学部・経済学部に改組された。

「つまり私は人文科学部法学科の最後の入学生だったわけです。当時の五十嵐キャンパスの校舎はできたばかりでピカピカでしたが、周囲は見渡す限り畑が広がり何もありません。人文社会科学系棟は、まだA棟とB棟しかなく、学生玄関前の芝生広場でゼミのコンパが開かれるなど自由な時代でした」

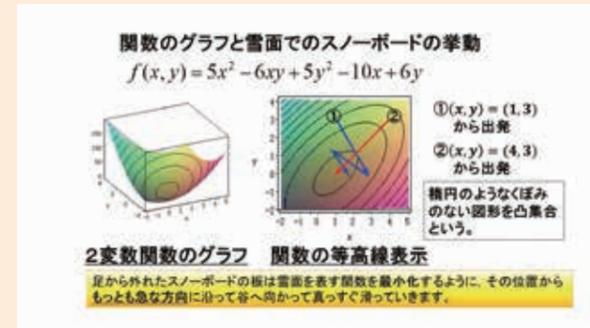
当時は学生運動が終わったばかり。キャンパス内には落書きや喧嘩の名残があり、友人の下宿からは過激な議論が聞こえた時代だったという。

「学生時代を振り返ると、新しいものを吸収した時代だったのだと感じます。今は世界中の文献を簡単に調べられる時代ですし、学修や研究をする上で新潟大学の環境は良くなったと思います。ただし、恵まれた研究条件を生かすも殺すもやはり本人次第です。もっと知りたい、学びたいという探求力はいつの時代の学生にも必要だと思います」

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第31回は理学部です。

第31回●理学部「あなたにとって最適化って何ですか？」



非線形計画問題に対する最急降下法の基本原理
(最適性条件や最急降下方向は偏微分の情報を利用)

最適という言葉は誰でも一度は使ったことがあると思います。また、似た用語に最大・最小、最長・最短などがあり、これらは複数のものを比較する際に何かを基準にして使用する言葉です。日常のあらゆる場面において、時間・距離・金額・人数・量・質などを基準にして、選択肢の中からより良いものを選ぶとう意思決定を行う必要があります。そして、最も優れたもの(あるいは好ましいもの)を「最適」と呼び、その求めるプロセス(行為)を「最適化する」と表現します。しかし、「最適化」したつもりが、詳しく検証したり経験値が増すと、もっと好ましいものが見つかったりするものです。

最近、数学が得意な主人公が他分野で活躍するテレビドラマをよく見かけます。これは、多くの人々にとって「数学」の考え方が社会を支えていると認識していることから共感を得て支持されるからだと考えます。実際、数学は古代からたくさん応用されていますが、例を挙げるときりがあります。現代社会に限ってみても、次のようなものがあります。

ラジオ放送やテレビ放送、あるいは携帯電話の通信などに代表される信号処理技術や病院の診療で利用されるコンピュータ断層撮影(CTスキャン)は、ベクトルの内積の原理を利用して組み立てられています。また、コンパクトディスクの読み取り技術やバーコード、QRコードなどのチェックデジットの仕組みは符号理論に基づいています。さらに、コンピュータネットワークにおいて安心な通信のために、暗号理論を利用した通信技術が必要であることも常識となりました。

一方で、最適化したい問題は意思決定者の考える【対象】と【標準】が多様で、最適化手法も様々です。そのため、どのようにモデル化するかによって、使用される数学も異なり、場合によって全く新しい数学が必要になったりします。例えば、最適化する(優劣を決める)評価標準が関数で表され、対象がある種の数学的構造を持つていけば、うまくモデル化することによりベクトル・行列や微分法を使って求めることができる場合があります。しかし、最適化する評価標準を表す関数がより複雑になると、凸解析学など新しい数学を考える必要が出てきます。また、比較する対象がもっと複雑だったりすると組合せ最適化(メタヒューリスティクス)や集合最適化(変分解析、集合値解析)などの新しい手法が必要となってきます。

田中 環
理学部教授

日本OR学会フェロー。専門は応用数学、オペレーションズ・リサーチ。特に、最適化理論と凸解析学に関する研究。また、国際交流事業にも取り組む。



※QRコードは株デンソウウェブの登録商標です。



75th Anniversary
NIIGATA UNIVERSITY
1948 - 2024

新たな挑戦
大きな貢献

創立 75 周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、
社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細はこちら



お問い合わせ
創立 75 周年記念事業準備室
TEL : 025-262-5626
E-mail : niigata_univ.75th@adm.niigata-u.ac.jp

— 学生の輝く未来を共に創る — 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。
「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R6.3～R6.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉 池田 大祐 石田 武裕 稲月 原 上松 正次 小田 克起 甲田 文一 品田 浩一 寺田 剛 外山 久泰 **〈団体〉** 匿名希望1団体
 藤田 隆 丸山 明則 山鹿 幸恵 吉田 滋 米川 宏一 匿名希望8名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。令和4年1月に創設し、「新潟大学フェロシップ支援」「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R6.3～R6.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉 新川 恒夫 石田 武裕 近藤 武彦 庭山 昌俊 山田 修 匿名希望6名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R6.3～R6.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉 相澤 知里 浅賀 岳彦 新川 恒夫 飯村 康一 五十嵐 忠明 五十嵐 整 五十嵐 素子 伊澤 良昭 石田 武裕
 石塚 卓 石附 敏弥 石山 壘 井手 協太郎 伊東 楓 伊藤 加代子 伊藤 雅章 今井 ありん 今井 かおり
 今成 文隆 石見 鉄夫 上松 正次 牛木 隆志 内堀 誠司 内山 聖 漆崎 順 大嶋 康義 大滝 春樹
 大羽 高光 大山 俊之 岡村 隆行 小川 哲也 小川 宏 鏡淵 明 賀澤 清次 梶原 謙一 数川 毅
 勝井 文美 加藤 公則 加藤 景三 加藤 真理子 金井 利郎 金子 峰 金子 淳一 金塚 武 浦谷 繁一
 上村 顕也 川合 千尋 川端 啓 菊池 健一 菊地 善一 木村 聡 峯名 克尚 剣持 常泰 小関 実
 小林 敬 小林 俊裕 小林 雅樹 齋藤 喜美子 齋藤 紘丈 齋藤 安司 酒井 剛 坂井 宏 坂口 努
 佐々木 源一郎 佐藤 史徳 佐藤 拓一 佐藤 正道 佐野 正俊 塩川 由雄 清水 重臣 白勢 仁士 末木 鋼治
 須貝 博 菅又 信 諏佐 涉 鈴木 榮一 鈴木 健次 鈴木 英次 須藤 謙亮 住吉谷 雅弘
 柴矢 俊幸 高木 陸弘 高島 青以 滝澤 哲也 武隈 涉 竹田 泰広 多田 晴美 他田 真理 田中 環
 田村 貢次郎 丹野 尚 椿 健一 寺田 剛 外山 久泰 中川 亨 中川 洋一 中川 芳雄 長澤 一明
 中谷 尚登 中野 雅人 長浜 裕子 中村 博行 西 亮一 西村 瑞枝 庭山 昌俊 野口 公聖 野村 純一
 羽下 洋子 長谷川 和彦 長谷川 まこと 濱田 一成 張替 徹 張替 涼子 東川 仁 廣田 巨樹 福原 紀章
 藤井 仁 逸見 和宏 星山 裕興 本間 剛三 本間 正隆 本間 芳之 正田 四郎 増子 隆太郎 松山 勇仁
 間濑 英輝 丸山 裕二 三島 文一 村田 雅史 村田 雅史 森 俊彦 森 勇造 八木 政行 矢部 達哉 山口 英郎
 山鹿 幸恵 山田 修 横野 知江 横山 恒 横山 恒 吉田 滋 吉田 卓矢 依田 敬子 米川 宏一 米山 弘一
 和栗 章 和田 恵子 渡邊 恵一 渡邊 景亮 渡邊 幸雄 渡辺 裕 匿名希望141名

〈団体〉 株式会社アイリック 株式会社有沢製作所 株式会社アルコン 新潟市立茨曾根小学校5年生一同 株式会社コーシン
 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 ベンディング新潟支店 三恵株式会社 サントリービバレッジソリューション株式会社
 司法書士合同総合事務所 司法書士 加藤 新 Japan Trinity Creation 株式会社 医療法人社団高木医院 TOPPAN株式会社エレクトロニクス事業本部
 株式会社中野科学 新潟県 新潟大学附属新潟小学校基金 医療法人社団橋本耳鼻科クリニック 星野電気株式会社 丸文通商株式会社
 医療法人社団明幸会新潟駅前ひらた内科クリニック 株式会社メビウス 合同会社レンズ 株式会社和光ベンディング 匿名希望11団体

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
 また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R6.3～R6.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)
 最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

【更新】〈個人〉 金子 哲
〈団体〉 北川グレストック株式会社 久保誠電気興業株式会社 株式会社品田電業社 株式会社ソリマチ技研 株式会社ナカノアイシステム
 新潟冷蔵株式会社 NA&HRコンサルティング社会保険労務士法人 本間電機工業株式会社

【更新】〈個人〉 荒田 学 磯部 利行 岡村 光展 小林 俊裕 駒村 繁 斉藤 正志 澁谷 裕之 高橋 姿 多和田 孝雄
 寺田 剛 二宮 登 根津 英美 森 正勝 山鹿 幸恵

〈団体〉 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 旭調査設計株式会社 株式会社アルコン 株式会社井伊製作所 株式会社ウィザップ 株式会社植木組
 株式会社ウオロク エアブラック株式会社 NECネットエスアイ株式会社新潟支店 株式会社遠藤製作所 税理士法人小川会計 開進工業株式会社
 株式会社加賀田組 片山食品株式会社 株式会社カネコ商会 木山産業株式会社 クオリティフーズ株式会社 株式会社熊谷 株式会社けんと放送
 株式会社コメリ 株式会社斎藤電設 医療法人さくら皮膚科医院 株式会社三條機械製作所 サントリービバレッジソリューション株式会社
 CEC新潟情報サービス株式会社 JA共済新潟 JA全農にいがた JA新潟厚生連 JA新潟中央 JA/バンク新潟県信連 株式会社ジェイ・エス・エス
 JCCソフト株式会社 株式会社ジェイマックスソフト 株式会社ジョイフルタウン 税理士法人近藤まこと事務所 セコム上信越株式会社
 株式会社ソフトクリエイティブホールディングス 損害保険ジャパン株式会社新潟支店 第一建設工業株式会社 第一生命保険株式会社新潟支社
 ダイエーロビンス株式会社 株式会社大光銀行 株式会社第四北越ITソリューションズ 株式会社第四北越銀行 胎内電建工業株式会社
 太平ビルサービス株式会社新潟支店 ダイアモンド電子株式会社 株式会社たかの 株式会社タケショー 田村紙商事株式会社 中越運送株式会社
 中越トラベル朝日交通株式会社観光部 株式会社ディモルギア 株式会社テック長沢 有限会社東京プリント社 株式会社巴山組 株式会社ナカムラ
 株式会社南雲製作所 株式会社ナルサワコンサルタント 株式会社新潟クボタ 一般社団法人新潟県経営者協会 一般財団法人新潟県けんこう財団
 新潟県信用組合 株式会社新潟ケンベイ 一般社団法人新潟県労働衛生医学協会 新潟信用金庫 新潟総合警備保障株式会社 新潟大学生協同組合
 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院 新潟ニッタン株式会社 日本海エール・エヌ・ジー株式会社 株式会社新潟博報堂 株式会社新潟ビルサービス
 新潟メスキュード株式会社 西田建設株式会社 日本精機株式会社 株式会社パイオニア 株式会社ハイングラフ 原信ナルスオペレーションサービス株式会社
 株式会社ビーアールシー 株式会社BSNインターネット 株式会社ヒウラ 東日本電信電話株式会社埼玉事業部新潟支店 株式会社ピクシス・テクノロジーズ
 株式会社瀬瀬 新潟税理士法人深滝合同事務所 藤川調理機械株式会社 株式会社ブルボン 北越工業株式会社 北越メタル株式会社 北陸ガス株式会社
 星野電気株式会社 株式会社本間組 株式会社マネジメントサポートセンター 株式会社マルイ 丸文通商株式会社 三星工業株式会社
 株式会社ミヤト野草研究所 株式会社村尾技建 エールホームクリニック 株式会社メビウス 有限会社ヤスダヨーグルト 株式会社ヨークベニマル
 株式会社横瀬オーディオ新潟営業所 株式会社菱電社 合同会社レンズ 匿名希望2団体

クラウドファンディング

■目的 インターネットを通して、本学が設定した具体的なテーマやプロジェクトに共感した方や応援したい方から資金を募り、各プロジェクト事業を推進していきます。

■寄附者名簿 (R6.3～R6.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)
 プロジェクト名:なぜマイノリティは周りにいないと思うのか?認知心理学で解明したい! /プロジェクト実行責任者:新美 亮輔

〈個人〉 浅野 崇 石井 菜々子 石垣 日向 石原 久司 井上 和哉 伊村 知子 内山 智絵 江口 正樹 榎本 大貴
 大串 潤介 太田 紘史 大山 和寿 奥村 亀一 小野 史典 梶原 初映 河原 純一郎 木村 智行 小林 直人
 齋藤 恵美 佐藤 直子 佐藤 隆夫 設楽 希実 白井 述 妹尾 勇太郎 高橋 徹 田村 芳則 中島 伸子
 中嶋 豊 降旗 輝彦 古川原 誠 星野 雅史 松井 克浩 三尾 聖二 光松 秀倫 モギ アツヤ 渡邊 大智

〈団体〉 新潟総合警備保障株式会社 合同会社レンズ 匿名希望51名

■トピックス1

株式会社メビウス様に感謝状を贈呈しました

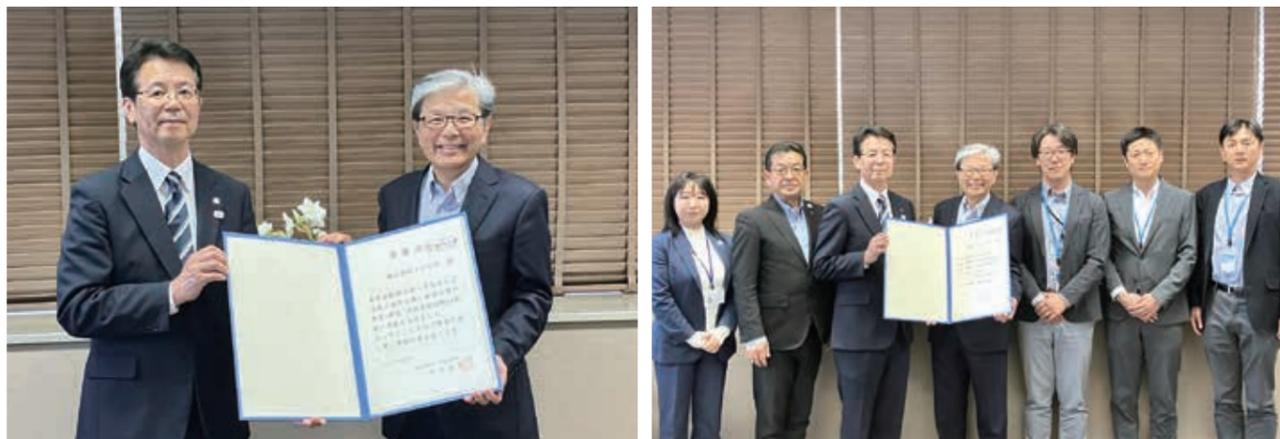
新潟大学サポーター倶楽部会員の株式会社メビウス様より、課外活動施設の改修整備や新潟大学将来ビジョン2030の実現に向けた取組を推進する「新潟大学創立75周年記念募金」へご寄附を賜りました。

5月30日(木)、株式会社メビウス新潟本社へ伺い代表取締役社長 加藤幸久氏へ感謝状を贈呈しました。

本学からは末吉理事・副学長と創立75周年記念事業準備室の江口主査で訪問しました。

懇談では、同社から「IT×バイオ」やAIやデータ分析を活用した事例などについて紹介があり、末吉理事からは日本酒学をはじめとする本学の取組や今後の展望等について説明がありました。また、同社には本学の卒業生・修了生を多く受け入れていただけており、社員の方々の活躍についてもお話いただきました。今後も、株式会社メビウス様とより一層の連携をすすめ、次世代の人材育成や科学の発展に寄与してまいります。

いただいたご寄附は、本学創立75周年記念募金基金に受け入れ、学生の課外活動施設整備のため大切に活用させていただきます。



末吉邦理事・副学長(左)、代表取締役社長 加藤幸久氏(右)

出席者による記念撮影

■トピックス2

新潟総合警備保障株式会社様より胡蝶蘭をいただきました

新潟大学サポーター倶楽部会員の新潟総合警備保障株式会社様より、本学創立75周年を記念し6月1日の開学記念日にあわせて胡蝶蘭をいただきました。

また、新潟総合警備保障株式会社様からは、これまで本学創立75周年記念募金へ多大なご寄附をいただいています。

* 新潟大学創立75周年記念募金

創立75周年を契機として、五十嵐・旭町キャンパスの健康スポーツゾーンの整備や新潟大学将来ビジョン2030の実現に向けた取り組みを推進することで、次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献することを目的としています。



遺贈によるご寄附

■遺贈とは

遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。
 この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。
 遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、サポーター連携推進室へお問い合わせください。

新潟大学遺贈寄附ページ <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/legacy/>

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
 「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
 HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

新潟大学アンバサダーを任命しました



本学では、創立75周年を迎えたのを機に、本学卒業生である宇賀神唯さん(フリーアナウンサー・看護師、2012年新潟大学医学部卒業)と山田彩乃さん(地域活性化モデル・タレント、NPO法人Lily&Marry'S理事長、2013年新潟大学教育学部卒業)を新潟大学アンバサダーに任命しました。

6月3日(月)、本学五十嵐キャンパスにおいて新潟大学アンバサダー任命式を行い、牛木学長より、任命状を授与しました。

今後、アンバサダーのお二方には本学のPRをしていただきます。

写真左から坂本理事・副学長、山田彩乃さん、宇賀神唯さん、牛木学長

創立75周年仕様のラッピングバスが運行を開始しました

本学では、創立75周年を記念し、創立75周年仕様のラッピングバスをデザインしました。ラッピングバスは6月22日(土)より、新潟交通株式会社との運行する路線バスとして、新潟市内を走行しています。

これに併せてラッピングバスフォトキャンペーンを実施しています。ご応募いただいた方の中から抽選で創立75周年記念グッズをプレゼントしますので、ラッピングバスを見かけたら、ぜひ写真を撮ってご応募ください。



フォトキャンペーンの詳細はこちら



工学部が文部科学省「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」で優秀賞を受賞しました



2023年度の文部科学省「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」において、本学工学部協創経営プログラム「課題解決インターンシップI・II・III」が優秀賞を受賞しました。

申請校26校の中から最優秀賞1校、優秀賞3校等が選ばれた今回の選考で、本学工学部の取組は「4年次の必修科目として工学分野における専門的知識を駆使して実習先の課題解決に取り組む内容となっていること、地元のコミュニティとの密接な連携によって経年的に実施されていること」等が優れた点として評価されました。

工学部協創経営プログラムは2017年度に創設され、多様な人々の集団をまとめ社会問題解決のリーダーとなれる人材の育成を目指し、産業界等との連携による実践学習、座学による工学及びマネジメントの知識習得、ディスカッションの機会を取り入れた双方向対話型学習を同時かつ交互に繰り返すカリキュラムを特徴としています。

今後は、この取組をモデルケースとして学内外に発信し、教育的効果のさらなる向上、普及に努めてまいります。



新潟大学
季刊広報誌

六花

R I K K A 2024.SUMMER No. 49

発行/2024(令和6)年9月
編集/新潟大学広報室
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

電話/025-262-7000

Home Page

<https://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

rikka@adm.niigata-u.ac.jp



定期送付のお知らせ

季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。